けやき通信 2025.6月 No.377

―錦織 佳代子―

若葉 薫る 島根の旅 4月24.25日

島根県立美術館で
柚木沙弥郎（ユノキ サミロウ）展（染色家）やってる。
それと 子供のころ読んだ伝記「山中鹿介（戦国時代の武将）」のことが心にのこっている。奥出雲の人だった。ほかにもいいところいろいろ。
というわけで

高速を走って島根へ。
奥出雲サイクリングターミナルに泊まって、美術館、博物館、カフェ、レストラン、そば屋など とてもいい旅。
出会った人たち、みんなおだやか。しんせつ。

なだらかな山波

対向車も 殆ど会わず

森や林、あかるい若葉につつまれて
心も体もやさしい緑に染まる。
四国の急峻な山道とまるでちがう。
朱色の石州瓦の家々、咲き残った桜の花。

島根県立美術館

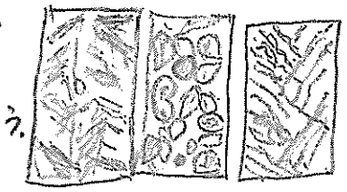
私の好きな美術館

夕日につつまれる宍道湖畔に建つ。「水との調和」をテーマにした美術館

1階 柚木沙弥郎 永遠のいま

（2024年に101歳の生涯を閉じた）

戦後、民芸思想に触れ、染色家の道に。
版画・コラージュ・絵本・立体作品など
新鮮な色彩・形。展示のしかたもすばらしく
たっぷりたのしんだ。
日々のくらしを
心ゆたかにと願う。



2階 北斎コレクション

富岳三十六景
「山下白雨」

この美術館所蔵の北斎コレクション約1600件の中から約40点をいつでも鑑賞できる。（1カ月ごとに展示替え）
以前、北斎の大展覧会のときも訪れて感動。浮世絵約3,000件所有。

私、北斎、好きです

もう少し近ければいいなあ。GORIさんにまたきたい。

写真家 奈良原一高
前衛写真〈無国籍地〉もありました。

GORIさんは地元玄瀬和紙を使用した御札を買った。
城跡は私が登れない。レトロな街並み歩きは次の機会に。

島根の旅、つづき、は、また次のときに

キリンジ

ヤスギ安楽市立歴史資料館
戦国大名尼子氏の家臣鹿介は尼子十勇士の筆頭。
尼子家再興のために
「願わくば我に七難八苦を与えたまえ」と三日月に祈った。

読書ノート

白い花のドクダミ、庭のあちこちに。

● 森のみずなら 高森登志夫 ぶんえ

図書館のロビーに展示してあった絵本、"みずなら"にパッと目をひかれた。水楢はブナ科の落葉高木。山地に多く高さ30メートルにも。よく登っていた皿ヶ嶺にもあって、秋、どっさり落葉を落す。
大判のこの絵本、見開きの広いページに"春。木は芽ぶき、花をさかせます。森はあかるいみどりにつつまれてゆきます。"と季節に沿って変わっていく様子が細密画のように描かれる。
みどりの風のにおい、小鳥たちの声、リス、サル、シカ、イノシシ、クマ、動物たちも往き来し、木の下につどう。
一本の大きなみずなら。枝いっぱいの葉のそよぎ。
"つよい風のふいたある日、みずならはとうとうたおれてしまいました。"――それから年月がすぎ、みずならはこけにおおわれすこしずつくさってゆきます。
ここに小さなみずならがそだち、ながい年月をかけて大きくなり、たくさんのどんぐりをつけるようになる。少し前に訪れた奥出雲から雲南への山路の明るいみどりの世界が生きいきとよみがえる。

花はまん中の穂状。

● そして、いつもそばにあるいさな本、"森にめぐるいのち"（片山令子・文、姉崎一馬・写真）を手にとった。すばらしい写真と文。しずかな森に大きな音がひびく、大きな木が倒れる。
この絵本も生命がどのようにして生き続けていくか、死とはどういうことなのか、静かに伝えてくれる。

白は苞（ほう）でした。

庭のアジサイが咲いた。草木は勢いがある。スーパーでの買物、米をはじめ何もかも値上げ、高い！
地球のあちこちで戦争、紛争、反乱、何よりも大きな気候変動、地球は壊れていく。すべて人間のやったこと！！！